

WEEKLY SIGNAL

2019年11月1日(金) 1498号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/4(月)	11/5(火)	11/6(水)	11/7(木)	11/8(金)
無担保O/N			△0.080%	～ 0.001%	
銀行券		+ 500	+ 1,000	+ 1,000	ト ン
財政債		△ 5,900	+ 1,000	△ 24,000	△ 6,000
資金需給		△ 5,400	+ 2,000	△ 23,000	△ 6,000
主要要因		法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税交付 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(10年)	交付税特会発行・償還
オペ期日		共通担保(全店) △ 3,600 CP等買入 △ 100			
オペスタート	振替休日(文化の日)				
		国債買入 + 4,100 共通担保(全店) + 1,700			
(日本)		日銀、営業毎旬報告(10月31日現在)	日銀、金融政策決定会合の議事要旨公表 (9月18・19日分)		景気先行CI指数(9月) 景気一致指数(9月)
(海外)	欧 ラガルト'ECB総裁、講演 米 製造業受注(9月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(10月)	米 貿易収支(9月) 米 ISM非製造業指数(10月) 欧 ユーロ圏PPI(9月)	米 NY連銀総裁、質疑応答に参加 米 ユーロ圏総合PMI(10月) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(10月) 欧 ユーロ圏小売売上高(9月)	欧 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ) 欧 ECB経済報告 欧 欧州委員会経済見通し 英 政策金利発表 米 新規失業保険申請件数 (11月2日終了週)	欧 EU財務相理事会 米 シカゴ大学消費者マインド指数(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初410兆2,400億円から始まった。その後は国債買入れや国庫短期証券買入れ主因に増加したが、週末となる1日には国債の発行等を受けて減少し、407兆6,500億円となった。
無担保コールON物は先週と比較すると、弱含む展開となった。同加重平均金利は週初△0.016%から始まり、その後は低下基調を辿りながら月末となる31日には△0.030%となった。一方、週末4日積みとなる1日にはビッドサイドの調達意欲が盛り返し、同金利は△0.024%となった。ターム物は、1~2W物で△0.02~△0.015%での出が見られたものの、オファーが薄く取引は閑散としていた。
日銀は31日の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定した。一方、政策金利の先行き(フォワードガイダンス)については、「少なくとも2020年春ごろまで」としてきた時間軸を削除し、「物価安定の目標に向けたモメンタムが損なわれるおそれに注意が必要な間、現在の長短金利の水準またはそれを下回る水準で推移することを想定」に変更した。
来週の主な予定は、国内では6日に日銀金融政策決定会合議事要旨(9月18・19日分)の発表や8日に景気動向指数(9月)の発表等がある。海外では5日に米貿易収支(9月)の発表や7日に英中銀による政策金利発表等がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆3,500億円で、週間償還額(約1兆500億円)を上回った。月末の大量発行(7,800億円程度)と11月スタートの新規案件で、発行超のマーケットとなった。発行残高は先週末の19兆8,593億円から、10月末残高は19兆8,106億円となった模様。発行レートは、発行量の多い銘柄では若干上昇地合いとなったが、引き続き0%近辺での出合いであった。28日に、CP等買入れオベが2,500億円オファーされ、按分レート△0.001%・平均落札レート0%と前回(按分△0.001%・平均0.004%)と比べ、按分レートは横ばい・平均落札レートは低下した。
来週の償還総額(11/5~11/8)は、2,600億円程度となっている。月初、償還も少ないことから落ち着いたマーケットを予想する。発行レートは、投資家の積極的な運用が鎮まっていることから、浅いマイナスから0%近辺でのレンジを予想する。

<TDB>

11月1日の3M867回債(2/10償還)の入札結果は最高落札利回り△0.1579%(前回債△0.1712%)、平均落札利回り△0.1700%(同△0.1943%)となり、入札後は△0.170%で出合いが見られた。そのほかのセカンダリーでは、月末ということもあり週を通して閑散であった。来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.065%~△0.055%が出合いの中心。以降週央にかけて一時的にレートが低下する場面もあり、△0.07%台での取引も見られた。その後、短国3Mの発行があった6日受け渡しでは、再度△0.065%~△0.055%の水準で推移し越週した。SC取引では、20年169回債が強く、△0.1%台前半~後半で取引された。他2年403~405回債、5年138~141回債、10年336~356回債、20年164~170回債、30年59・62~64回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。